



フジテレビ CSRリポート 2020

会社概要

商 号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
事 業 所	本社 〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号 03-5500-8888(大代表)
設 立	2008年10月1日(新設分割による)
放送開始	1959年3月1日
資 本 金	88億円
従業員数	1,314名(2020年3月31日現在)

フジテレビCSRリポート2020

2020年6月30日発行

FUJI TELEVISION
CSR REPORT 2020

フジテレビのCSR

Our Corporate Social Responsibility



私たちは
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
SDGsをはじめとする
社会課題の解決に努めて参ります。
「伝える」ことで世界を「変える」きっかけづくりが
できればと願っています。



SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標のことで、貧困・飢餓をなくす、質の高い教育、ジェンダー平等、気候変動対策等17のゴール・169のターゲットで構成されています。2030年までの解決をめざしており、達成には多様なパートナーシップが求められています。

CSR活動方針

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたるCSR活動を行っています。映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて人々に楽しさ、感動を与え、放送文化に寄与するという社会的使命を認識し、それにより世の中の社会課題の解決につなげていくことを目標としています。

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は右記のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告並びに次年度の活動計画を審議しています。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトチームメンバーです。毎月1回ずつ企画会議と全体会議を開き、新しい企画の検討や活動報告、情報交換を行っており、“ボトムアップ型”のCSR活動を実施しています。またメンバーを毎年入れ替え、社内のCSRに対する理解の浸透を図っています。



2019年度 CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビCSRレポート2020編集方針

本レポートはフジテレビが2019年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを通じて、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってきました。活動内容はCSR WEBサイトに随時アップしていますが、本レポートはより読みやすく、ご理解頂きやすいようカテゴリー別に編集しました。フジテレビのCSRの取り組みを知って頂くきっかけになれば幸いです。

ご意見、ご感想等ございましたらお寄せ下さい。

- フジテレビ総務局CSR推進室 csr.ss@fujitv.co.jp

対象範囲

本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものも掲載しています。

対象期間

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
※一部2020年4月以降の活動も含まれます。

CSR WEBサイト

<https://www.fujitv.co.jp/csr/>

トップメッセージ Top Message

2020年の幕開けとともに、新型コロナウイルスの世界的な蔓延という想像もつかない事態が生じました。コロナが社会に与える影響は、自然災害のように目に見える形ではなく、見えない形で今後も増大していくと考えます。

こういった人々の心が不安とストレスに覆いつくされそうな時代は、反面、それを解消するために「テレビ」が、その持てる力をすべて発揮すべき時でもあります。

フジテレビは、2006年にCSR推進室を設置し、14年にわたって様々なCSR活動を展開してきました。未来を担う子どもたちのために、みんなが生きやすい社会にするために。また、地球を守り住みやすい環境を作るために、災害に遭われた方々に少しでも元気になって頂くために、幼稚園や保育園、学校、被災地に伺ってFace to Faceでみなさまに寄り添いながら行って参りました。

そんな活動の在り方も変容を迫られており、新しい生活様式に対応した新たな取り組みも模索していく所存です。

今後は、気候変動等様々な環境変化に伴う課題や、次世代の育成等、未来への義務に対してどのように取り組んでいるかという複合的な視点が一層重視されるようになってくるでしょう。

2020年は、国連が定めた世界共通の目標SDGsの達成期限まで10年という節目の年です。私共は2018年夏に、世界で初めてSDGsに関するレギュラー番組『フューチャーランナーズ』を立ち上げ、社会課題の解決に向け熱心に取り組む方々を紹介しています。こうした番組を通じて、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた動きが加速することを願っています。

これからも、テレビ局の本業である放送とそれに関連した活動を中心に、エンターテインメントの要素も取り入れながら、フジテレビらしいCSR活動を続けて参ります。

2020年6月

代表取締役社長兼COO
President and COO

遠藤 龍之介

フジテレビの親会社であるフジ・メディア・ホールディングスは「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。[2018年4月～]



「国連グローバル・コンパクト」とは、企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みに参加する取り組みです。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。

フジテレビは「SDGメディア・コンパクト」に署名しています。[2018年12月～]



「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

一私たちが重点的に取り組んでいることー

Materiality

特集

映像の力で「伝える、変える」

05-06 『フューチャーランナーズ～17の未来～』他



子どもたちのために

- 07 アナウンサーの出前授業「あなせん」
- 08 “体験”することで好奇心を育てる取り組み
- 09 食育出前授業「ハロー！どっこくん」
新型コロナウイルス対策 子どもたちの支援
- 10 次世代のクリエイター・未来のアスリートを育成 他



共生社会をめざして

- 11 東京オリンピック・パラリンピックに向けて
清掃活動・番組でブームアップ・勉強会等
- 13 コンテンツにおけるバリアフリー
アウェアネスカラーライトアップ
- 14 FNSチャリティキャンペーン 他



地球環境のために

- 15 環境問題を伝える番組を継続放送
- 17 環境美化活動
- 18 地球環境のための社内の取り組み



災害復興支援

- 19 「ずっとおうえんプロジェクト」
- 20 被災地の現状を伝える番組を継続放送
- 21 サザエさん募金
「こども笑顔プロジェクト」他
- 22 BCP対策・防災への取り組み



5 23 フジサンケイグループの取り組み

7 25 人材育成と職場環境

6 24 視聴者とともに

8 26-29 マネジメント体制

30 第三者意見

映像の力で「伝える、変える」 映像やエンターテインメントの力で社会に貢献



社会課題を発信し、行動へとつなげる

SDGsのゴールに向かって走る“ランナーたち”を紹介するミニ番組を毎週放送

『フューチャーランナーズ～17の未来～』

テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、SDGsに特化したミニ番組『フューチャーランナーズ』を2018年7月から制作・放送しています。課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで制作しています。



2019年9月より海外で活躍する人たちも紹介

番組では、地球上にある数多くの社会課題を伝えるとともに私たちひとりひとりができることは何かを考え、アクションを起こしてもらえるような取り組みを取材・放送しています。[2020年3月末までに77回放送]

放送例

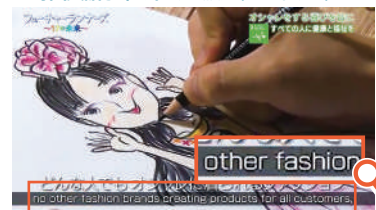
- 「未来へつなぐ環境印刷」株式会社 大川印刷 大川哲郎さん
- 「おにぎりの愛情を世界に」NPO法人TABLE FOR TWO international 大宮千絵さん
- 「障害を価値に」株式会社ミライロ 垣内俊哉さん
- 「被災者を救う紙の建築」建築家 坂茂さん

“誰一人取り残さない”という理念のもと、より多くの方に見てもらいたいとの思いから、放送後は公式サイトですべての動画を配信しています。また、放送時から英語字幕を付けています。

●過去の動画アーカイブページ



●毎回英語字幕を付けて放送(2019年3月～)



英語字幕

●番組スポンサーとのパートナーシップで実現

「番組コンセプトが私たちの理念やめざす方向性と一致していたこと、SDGsの課題解決にはより多くのステークホルダーとの協働が必要で、テレビという媒体を通じてSDGsの社会的認知が高まり、人々の意識が変わっていくことを期待します。」

[MS&AD インシュアランスグループホールディングス広報・IR部 能勢恵美氏]

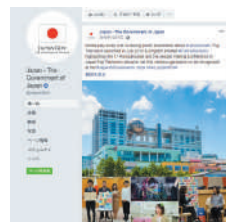


2020年4月～

官邸の英語版SNS「Japan Gov」で紹介

首相官邸の海外向けFacebookとTwitterに『フューチャーランナーズ』が取り上げられました。

[2019年12月7日]



第2回ジャパンSDGsアワード パートナーシップ賞受賞

[2018年12月]



●ニュースサイト「FNNプライムオンライン」で放送内容を記事化し発信

<https://www.fnn.jp/subcategory/SDGs>

FNNプライムオンライン



2 人々の命を守るためにテレビができること



災害報道“死者をゼロにする”ために他メディアと連携

災害報道においてはメディアの連携によって、もっとできることがあるのではないかと。東日本大震災から10年となる2021年に向け、フジテレビはNHK、ヤフーと共同でこのテーマに取り組みました。

NHK 『“死者ゼロ”を目指せ～デジタル新時代の情報発信とは～』

[2020年3月8日 15:00~16:00 NHK総合テレビ放送]

NHKの討論番組では、3社の災害担当者に加え被災者でもある地元メディアも参加。被災者を救うために必要な情報とは何か、これまでテレビでできなかったことへの真摯な反省も交えて議論が進み、具体的なメディア連携の在り方まで提案することができました。

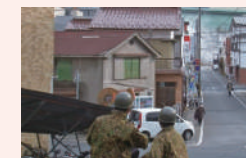


司会：NHK井上あさひアナウンサーと、フジテレビ伊藤利寿アナウンサー
フジテレビ報道局取材センター青木良樹室長、岩手めんこいテレビ報道部井上智晶アナウンサー/記者、ヤフー田中真司天気・災害サービスマネージャーらが討論に参加。

フジテレビ 『わ・す・れ・な・い～死者をゼロにする情報とは～』

[2020年3月11日 15:50~16:50 フジテレビ放送]

災害報道の役割のひとつは、人々が「命を守るための行動」を実際に起こすことです。フジテレビでは、『わ・す・れ・な・い』シリーズ10作目の検証番組として、岩手県釜石市と宮城県山元町を取り上げ、何が生死を分けたのかを、NHKのアーカイブ映像やYahoo! JAPANビッグデータ等も交え、新たな証言から多角的に検証しました。あと数分早く避難していたら、あと数十メートルの距離を逃げていたら…釜石を襲った津波では、当日のNHKのニュース映像から検証した結果、「3分間」で避難行動を起こし命が助かった事例を見つけることができました。



岩手県釜石市

●フジテレビ情報制作センター 演 潤 室長

「ひとりでも多くの命を救うために一緒にやりませんか」とNHKのプロデューサーから提案を受けた時に、「うちにも同じ志を持つスタッフがいいます」と即答し、このプロジェクトは始まりました。今や災害情報の発信に欠かせないネットメディアのヤフーも趣旨に賛同してくれました。放送後の今も、社内外で関係者が集まり実現に向けての検討が続いています。

Yahoo! JAPAN 特設サイト『『その時』メディアに何ができるのか』 <https://about.yahoo.co.jp/topics/20200213.html>

東日本大震災当時の被災地のニーズをYahoo! JAPANで蓄積したビッグデータをもとにAI技術で分析、独自のデータで共同企画を支援しました。



3 こんな時こそテレビで元気を届けよう！



『緊急生放送!! FNS音楽特別番組 春は必ず来る』

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、フジテレビ系列では、『FNS音楽特別番組 春は必ず来る』を緊急生放送。外出を控え自宅で過ごす人が多い中、全国のみなさまが元気を取り戻してもらえるようなエンターテインメントを提供しました。3時間の生放送には、番組の趣旨に賛同してくれたアーティストたちが多数集結。コンサートツアーやミュージカル公演が中止になったアーティストたちを含む28組が、熱のこもったパフォーマンスを全国に届けました。 [2020年3月21日 19:00~22:00 放送]

子どもたちのために

子どもたち・若者は未来を担う大切な宝です。
私たちは若い世代を社会全体で大切に育て
明るく健やかな成長をサポートしたいと願っています。

永島優美アナウンサー

“伝えるプロ”が子どもたちの“伝え合う力”をサポート

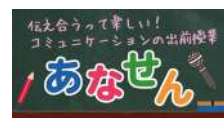
■アナウンサーによる出前授業「あなせん」を15年間継続

「あなせん」(アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートしたコミュニケーション能力向上のための出前授業です。メールやSNSでのやりとりが主流となった今、改めて Face to Face で話すことの楽しさや大切さを子どもたちに伝えていきます。2019年度は初めて海外の日本人学校でも実施しました。

■プロジェクト概要

- 対象:小学校3年生～6年生
- 講座内容:[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア:関東1都6県

「あなせん」
<https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



大村麗アナウンサー



生野陽子アナウンサー



上海日本人学校 虹橋校での「あなせん」

■上海日本人学校 虹橋校 堀裕樹先生より

私は、「あなせん」が出す授業での「空気」がすごく好きです。抽象的かもしれませんが、その空気が全体に広がり、いつも関わっている友達とも少し違う良い雰囲気の中で関わり合い、知り合い、心を通じ合わせられる。そんな空気が充滿している「あなせん」が大好きです。

活動開始から現在まで、
のべ**1万9,500人**(242ヶ所)の子どもたちと
触れ合ってきました。(2020年3月末現在)

2019年度は、17校 2,514人を対象に実施

- 東京都
港区立お台場学園港陽小学校
品川区立第一日野小学校
葛飾区立梅田小学校
杉並区立香榊小学校
葛飾区立清和小学校
品川区立三木小学校
新宿区立西新宿小学校
江東区立浅間堅川小学校
足立区立桜花小学校
武蔵野市立第一小学校
品川区立豊葉の杜学園
- 千葉県
山武市立鳴浜小学校
- 埼玉県
深谷市立榛沢小学校
八潮市立中川小学校
羽生市立村君小学校
- 神奈川県
かまくらっ子にかいどう
- 国外
上海日本人学校 虹橋校

「あなせん」他団体とのコラボ例

■東京文化会館とコラボ

東京文化会館のアウトリーチ活動とコラボし、音楽の演奏と朗読をミックスしたプログラムを2016年から毎年開催。

[2019年11月5日・6日 品川区立三木小学校・新宿区立西新宿小学校]



「アンサンブルミクス」と山中華子アナウンサー・梅津弥英子アナウンサー

■児童養護施設出身の若者たちを指導

親を頼れない子どもたちが、自らの経験を語るイベント「コエール」(主催:ブリッジフォースマイル)の趣旨に賛同し、スピーチを行う7人に対し、アナウンサーがマンツーマンで話し方を指導。



[2019年6月16日] 「コエール」<https://coyell.b4s.jp/>

■小学校の放課後プログラムに参加

“放課後の時間をもっと豊かに”という思いで住友生命が行っている「スミセイアフタースクールプログラム」の一環として、フジテレビ技術チームと「あなせん」のコラボ授業を実施。



[2020年2月12日 放課後かまくらっ子にかいどう]

“体験”することで好奇心を育てる

■職業体験型教育プログラム「フジテレビのお仕事!」が10周年

「フジテレビのお仕事!」は専用スタジオでプロ用放送機材を使用して番組を制作することを通して、メディアリテラシーやチームワークの大切さなどを学ぶ職業体験型教育プログラムです。小中高生向けのプログラムに加え、大学生向けのキャリア教育や海外ロケ体験、企業・団体向けの人事研修やオリエンテーションプログラム等も展開しています。

[2019年度末時点のべ904団体 体験者数95,951人]



■春と夏にテレビのお仕事体験を実施

春休みに実施した「フジテレビで遊ぼう!」では、「あなせん」やテレビ技術体験、中継車試乗体験、社内見学ツアー等テレビ局ならではの催しを行い、大勢の方楽しんでもらいました。また夏休みには「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」を開催。社内見学ツアーでは『バイキング』のスタジオで本物の機材に触れるなど、テレビ局のお仕事を体験して頂きました。

「フジテレビで遊ぼう!」2019年4月5日
「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」2019年8月9日・19日



■社内見学ツアー「のぞいてみよう!フジテレビ」(通年開催)

小学5年生から大学生までのグループを対象に社内見学ツアーを行っています。番組のスタジオ・美術セットが並ぶ倉庫等、テレビの舞台裏をのぞいて放送が視聴者のもとに届くまでの仕組みを楽しく学びます。

[2019年度 見学ツアー参加者3,509人] 「のぞいてみよう!フジテレビ」<https://www.fujitv.co.jp/kengaku/>



子どもたちの明るく健やかな成長をサポート

■食育出前授業「ハロー！どっこくん」

子どもたちに食の大切さを伝えるイベントを全国で開催

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん体操」等で構成されたプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、全国に広がっています。幼稚園・保育園での出前授業に加え、被災地を含む各地のイベントでも数多く開催しました。

※被災地復興支援につきましては、19ページをご参照下さい。

■オリジナルホームページも充実！

「どっこくん体操」や「快ウンおみくじ」が楽しめます。
「ハロー！どっこくん」
<https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>
「どっこくん体操」動画をYouTubeで公開
<https://youtu.be/zv5BQKpw7M>

■保護者から頂いたメッセージ(子どもと幼稚園)

「どっこくん体操」が子どもたちの中でブームとなり、食育が身近なものになりました。かっこいいどっこくんと会うために、今でも全クラス一緒に踊るのが日課です。



©フジ・メディア・ホールディングス/CSR2010



2019年度 **11**ヶ所に伺い、約**1,230**人の子どもたちと出会いました！

2010年からこれまでに **189**ヶ所に伺い、約**22,530**人を対象に実施

(2020年3月末現在)

PICK-UP

新型コロナ対策を受けて子どもたちが楽しめる番組を特別編成



©ガチャムク



©O/S.F.T

■フジテレビに寄せられた視聴者の声

家にいる子どもたちのための『ワンピース』の放送、とてもうれしい。夕方の忙しい時間に助かります。素早い対応がすごい。

新型コロナウイルスの影響で、全国の小中高校が休校になったことを受けて、在宅している家族がみんなで楽しめる番組を放送しました。3月9日からアニメ『ワンピース』のエピソードシリーズ特別編を緊急編成(15:50~16:25)、あわせて夕方のニュース番組『Live News it!』を通常より開始を早めて放送し、刻々と変わる新型コロナウイルス関連のニュースを子どもたちにもわかりやすく放送しました。

[2020年3月9日~4月1日]

次世代のクリエイターを育成

■高校生の作品をドラマ化して放送！「ドラマ甲子園」

2014年からスタートした高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出でテレビドラマ化されます。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



第6回「ドラマ甲子園」大賞受賞作品『受験ゾンビ』は、受験を控えた高校3年生の夏休みに、文化祭の準備のため主人公のあかりが登校してくるところから始まります。次々にゾンビ化していく生徒たちを描きながら、受験に対する悩み、苦しみ等のあらゆる感情を切り取ったリアルな現代の高校生たちの人間ドラマ。また作品がで上がるまでの監督に密着したメイキング番組もCS放送&FODで配信し話題になりました。

〔ドラマ本編：2019年10月20日 23:00~24:00 CS放送〕
〔メイキング：2019年 9月20日 23:30~24:00 CS放送〕

■「ヤングシナリオ大賞」

ドラマ制作における新たな才能を発掘する「ヤングシナリオ大賞」。31回目となる今回の応募総数は1,733編で、大賞を受賞したのは中村允俊さんでした(作品『パニックコマーシャル』)。これからも次世代のドラマと一緒に作り上げる才能を発掘すべく、この懸賞制度を継続していきます。[2019年12月16日 25:15~26:15 放送]



未来のアスリートを育成

■「春高バレー」

ジャパネット春の高校バレー
第7回全日本バレーボール高等学校選手権大会

「全日本バレーボール高等学校選手権大会」として高校バレー日本一を決定するこの大会を日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟とともに主催しています。地上波、BSフジ、CS放送*で放送している他、「SPORTS BULL」にてライブ配信。フジテレビ系列の総力を結集して、高校生の若さあふれる熱戦を毎年お届けしています。

[2020年1月5日~7日、11日、12日]
※フジテレビONEsmart / TWOsmart / NEXTsmart+特設チャンネル

■「バボキャラ」

バレーボールの元全日本代表選手が全国の高校チームに赴き、コーチングをレクチャーするプロジェクト。被災3県の復興支援活動を主目的とし、バレーボールを通じた地域の活性化、バレーボールの普及、青少年の育成をめざしています。2019年度は北海道、岩手、宮城、福島で実施し、このプロジェクトを通じて各地で絆を深めました。

[2019年9月~2020年3月の期間中 5回開催]

難病と闘う子どもたちを支援

■「そらぶちキッズキャンプ」



「そらぶちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年からキャンプでの朗読会や食育イベントを開催しています。2020年3月1日の東京マラソンに向けて、東京サンケイビルメトロスクエアで写真展を開催しました。[2020年2月25日~3月7日]

solaputi kids' camp

■公益財団法人「そらぶちキッズキャンプ」とは？

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病等の難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごす場を提供しています。

共生社会をめざして

人と人をつなぐ“メディア”として
地域社会の発展や
あらゆる人がいきいきと暮らせる社会の
実現をめざします。



お台場の海に浮かぶ五輪モニュメント

「夢の、ど真ん中へ。」東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて

東京2020オリンピック・パラリンピックの多数の競技会場をはじめ、聖火台、五輪モニュメント等が配置される臨海副都心エリアは、国内外から選手・観客・ボランティア等が集い、世界中の注目が集まる場所になります。フジテレビでは、積極的に大会と向き合うために2019年2月に「2020オリンピックパラリンピック推進室」を立ち上げました。大会の“ど真ん中”にいる企業として、世界中から訪れる人々を温かくもてなし、大会の成功に寄与するとともに、海外の放送局や関連団体とも新たな協力関係を築き、多くのレガシーを残していきたいと考えています。

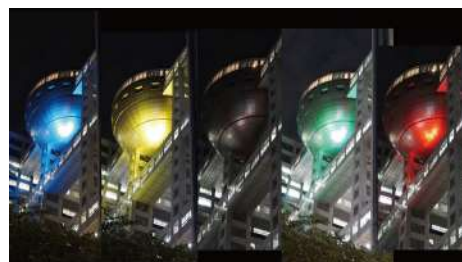


東京2020参画プログラム 合同清掃活動を実施



大会開幕予定日半年前となる2020年1月24日、競技会場が多く集まる臨海副都心エリアの清掃活動を行いました。この活動はクリーンで快適な街づくりをめざす活動として、「東京2020参画プログラム」として正式に認証されました。フジテレビをはじめフジ・メディア・ホールディングス各社、東京臨海副都心まちづくり協議会、NPO等から108人が参加し、70リットルの袋27個分のゴミを回収しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたライトアップ



TOKYO 2020 1 YEAR TO GO

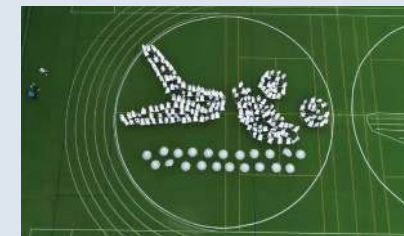
大会ブームアップのため、2019年7月24日夜に、フジテレビ球体展望室をはじめ、街全体で五輪マークの5色をあしらったイルミネーションを実施しました。また、8月25日には、パラリンピックのシンボル「アギトスカラー」のライトアップを実施、臨海副都心エリアの自由の女神像やパレットタウン大観覧車、東京ビッグサイトとも連動しました。

PICK-UP

番組を通じて大会ブームアップに貢献

『特別企画 東京オリンピック ど真ん中SP』

東京2020大会が開催される会場をリレー形式で紹介、オリンピックや選手を招いて東京五輪のメダルを番組内で紹介するなど、オリンピックへの期待感を共有しました。スペシャル企画「人文字ピクトグラム」は、会場の競技ピクトグラムを港区立お台場学園港陽小学校・江東区立東雲小学校の生徒たちが協力して作り上げました。[2019年7月24日 15:50～16:50 放送(関東ローカル)]



小学生による人文字

『民放同時放送 一緒にやろう2020 大発表スペシャル』



民放キー局5社のアナウンサーがフジテレビに大集合し、全国114のテレビ局が垣根を越えて同時生放送。2020年という記念すべき年に、「一緒にやろう」を合言葉に、オリンピックシンボル点灯などを生中継で伝えました。

[2020年1月24日 18:40～19:00 放送]
「民放同時放送 一緒にやろう2020大発表スペシャル」<https://isshoniyarou-2020.jp/>

『パラ☆DO! 真ん中(パラどまんなか)』

障害者と健常者が相互に尊重し合える「共生社会」の実現に向けて、パラスポーツを応援しています。2020年3月28日に放送した特別番組では、外務省と連携し、東京2020聖火リレー公式アンバサダー田口亜希さんとバングラデシュやラオスを訪問、パラスポーツの普及や理解促進につながる番組を制作・放送しました。また、4月からはレギュラー番組『パラ☆DO!』(毎週土曜15:25～15:30放送)を通じて、パラアスリートのみならず、パラ競技を支える人々や団体を紹介しています。[2020年3月28日 27:15～28:15 放送(関東ローカル他)]



「オリパラ勉強会」を実施

社内の機運醸成を目的にオリンピック・パラリンピックについての勉強会を開催しました。社屋周辺ではどのような競技が開催されるのか、予想来場者数はどのくらいかなど、夢の祭典に向けて知識を深めました。
[2019年11月20日 参加者279人]



「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」に参加



東京2020大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに参加。フジ・メディア・ホールディングス各社にも呼びかけをし、不用になった小型家電、放送機材等を寄付しました。

回収した小型家電等の総重量 **12t896kg**

誰もが生きやすい社会をめざして

■コンテンツにおけるバリアフリー

■字幕放送 6時～24時のすべての収録番組(生放送以外の番組)に字幕を付与しています。

主に聴覚障害者や高齢者等、テレビの音が聞こえにくくなった方々に番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を「文字」にして画面に表示する字幕放送を行っています。ドラマのセリフや番組のトーク部分、効果音も字幕で表示し、内容を十分ご理解頂けるようにしています。ニュース等の生放送では、「生字幕(ほぼリアルタイムで字幕を付けること)」の付与を進め、更に生放送のバラエティやスポーツ中継等についても積極的に字幕を付けています。CM字幕放送も増やしていくべく対応を進めています。

2018年度実績 付与可能時間に対するフジテレビの付与率 100% 総放送時間に対するフジテレビの付与率 59.8%

■解説放送

視覚障害者の方々にもテレビを楽しんで頂くために、副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明します。

2018年度実績

付与可能時間に対するフジテレビの付与率 15.1% 総放送時間に対するフジテレビの付与率 5.7%

【解説放送付与番組】

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』、単発ドラマや邦画等

■映画

2019年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付与)。また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるようすべての映画に「音声ガイド」を付け、バリアフリー上映も行いました。

『コンフィデンスマンJP ロマン스編』『劇場版ワンピーススタンピード』『記憶にございません!』『マチネの終わりに』『午前0時、キスしに来てよ』『ヲタクに恋は難しい』『一度死んでみた』

■手話放送 『テレビ寺子屋』[毎週土曜 4:52～5:22 放送]

■街全体でアウェアネスカラーライトアップ

ライトアップを活用し社会課題への支援の意思を発信しています。街全体をアウェアネスカラーで照らすことで、社会課題を「知ってもらう」きっかけを提供し解決につなげる取り組みで、多様な価値を認め合うダイバーシティ社会をめざして臨海副都心エリア全域で実施しています。

■2019年度ライトアップ一覧

4月 2日 世界自閉症啓発デー(ブルー)
5月 5日 LGBTを含むあらゆる差別・偏見をなくすレインボー
9月 21日 国際平和デー 世界平和を考える白
10月 1日 乳がんの予防啓発(ピンクリボン)
10月 16日 臓器移植への理解促進(グリーンリボン)
11月 1日 児童虐待防止(オレンジリボン)
11月 12日 女性に対する暴力の根絶(パープルリボン)
12月 1日 世界エイズデー(レッドリボン)
1月 20日 障害者権利条約が日本で発効された日(イエローリボン)

【参加施設・企業】

東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイト、レインボーブリッジ、パレットタウン大観覧車、自由の女神像、デックス東京ビーチ、乃村工藝社



■よさこい祭りで児童虐待防止



お台場の秋を彩る「ドリーム夜さ来い祭り」(共催:フジテレビ)と、児童虐待防止を訴える「オレンジリボン」とのコラボが初めて実現。18回目となる祭りでは、各チームがオレンジのリボンを付けて踊り、フジテレビも社屋をオレンジに照らしました。
[2019年11月1日～3日]

世界の子どもたちの貧困解決に向けて

■第46回 FNSチャリティキャンペーン 支援国「ウガンダ共和国」

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、ユニセフ(国際連合児童基金)を通じて国際貢献を行ってきました。46年に及ぶ活動の募金総額は43億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

2019年度は、アフリカ東部・ウガンダ共和国の子どもたちを支援しました。ウガンダでは、エイズによって親を失ったエイズ孤児が56万人も暮らしており、貧困やいじめ、差別等に苦しんでいます。また、古くからの一種の慣習である児童婚が深刻な社会問題です。貧困家庭に生まれた女の子たちが、婚家から贈られる牛や羊等の家畜と交換のような形で、望まない結婚を強いられるケースが多々見られます。こうした状況を伝えるため、取材班は合計3週間にわたり現地を取材、情報番組『とくダネ!』で、5月20日・21日の2日間にわたって放送し、支援を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動を行いました。



【放送実績】

- フジテレビ『とくダネ!』内で森本さやかアナウンサーによる報告
[2019年5月20日・21日放送]
- BSフジ [2019年8月3日・18日・9月1日放送]
- CS フジテレビNEXT [2019年10月8日～2020年3月30日の間16回放送]

【イベントにおける募金活動】

- 森本さやかアナウンサーによる現地取材報告会(東大阪市、長野・立科町)
- 「キュリオス」会場内「くるくる募金箱」(仙台)
- 関西テレビの番組『カンテレ通信』に森本アナウンサーが出演し、現地取材報告、及び募金告知
- その他系列各局イベント

【フジテレビ製作の映画収益からの寄付】

- 映画『コンフィデンスマンJP ロマン스編』の収益から総額600万円を寄付



また、初めての試みとして、クラウドファンディングでも寄付を募り、155万3,000円のご支援を頂きました。

2019年度の最終寄付総額 3,854万7,613円

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

■アナによる蔵書朗読録音

2009年より日本点字図書館にて、アナウンサーが蔵書朗読録音ボランティアを続けています。視覚障害者のために書籍を音訳し録音、インターネットで配信しています。

■国連ウィメン日本協会へ寄付

途上国を中心に「世界中の女性に教育と労働の場を」という理念の下に活動する国連ウィメン。ジェンダー平等な世界をめざし女性のエンパワメントを行う同協会を支援しています。

■ブックフォースマイルへ寄付

書籍の寄贈を通じて児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援しています。2019年度は、フジテレビより合計1,878冊が寄付され、12万1,525円が支援にまわりました。

※フジ・メディア・ホールディングス全体では、3,608冊 20万1,124円

地球環境のために

環境をテーマにした番組の放送、
全社を挙げた省エネ、省資源の取り組みや
花や緑あふれる美しい街づくりを
目的とした活動を継続しています。

セントラル広場に咲くチューリップ 2020年 春

環境問題を伝える番組を継続放送

■ 過去3回にわたって放送した『環境クライシス』がレギュラー番組に

近年、頻発する気候変動による異常気象。その影響は日本にも出始めています。土砂災害等によって美しい景観は失われ、野生動物や昆虫は姿を消し生態系にも変化が起きています。そんな中、次世代に受け継ぐべき日本の風景を撮影し続けるプロフェッショナルたちは、この環境変化に以前から気が付いていました。番組では、写真家たちとともに受け継ぐべき日本の風景を紹介。それとともに目の前で起きている気候変動、未来へのリスクを提唱しました。

[2020年1月～3月 毎週火曜 22:54～23:00放送(関東ローカル)]



写真家 中西敏貴

■ 『環境クライシス』が3年連続COPで上映

豪雨による都市水害・洪水被害にさらされているインドネシアの“環境難民”が、生活を奪われつつもたくましく生き抜こうとする姿とその子どもたちの生活に密着した『環境クライシス3～水没するアジア巨大都市の環境難民～』(2019年3月23日 15:30～16:30放送)が、2019年12月マドリードで開催されたCOP25のジャパン・パビリオンで上映されました。当番組がCOPで上映されるのは2017年、2018年に続いて3回目です。



COP25 ジャパン・パビリオン



洪水被害に見舞われたジャカルタ

■ 『とくダネ!』で気候変動について放送

朝の情報番組『とくダネ!』(月～金 8:00～9:50放送)では、日々の放送より、天達武史気象予報士が実際に取材するなど、異常気象や世界の気候変動を積極的に取り上げています。また、2019年9月の「国連気候行動サミット」の際は、グレタ・トゥーンベリさんの演説をノーカットで放送、「子どもたちの未来を大人たちが奪っている」という16歳の痛烈なメッセージに世界が震えた瞬間でした。今後も世界の気候変動に注目し、独自の企画や特別番組で取材を続ける予定です。



■ 地球環境大賞2019特別番組

『外国人に聞いてビックリ! 世界に学ぶ環境対策最前線』

「産業の発展と地球環境の共生」に貢献した企業や団体、地方自治体などを顕彰してきた地球環境大賞(23ページ参照)の特別番組。受賞企業の取り組みの紹介とあわせ、SDGs(持続可能な開発目標)国際ランキング3年連続1位に輝くスウェーデンを西山喜久恵アナが現地取材。ストックホルム郊外の最先端環境都市のシューターによるゴミ収集システムや、再利用することでゴミ自体を減らす取り組みを詳しく紹介しました。また、社内の意識を高めるため、西山アナによる取材報告会も実施しました。

[フジテレビ(関東ローカル) 2019年6月22日 15:30～16:30 放送
BSフジ 2019年6月30日 14:00～15:00 放送]



西山アナウンサーによる取材報告会

■ 『アースウォーカー 洪水緊急事態! 水の真実を解き明かす滝川クリステルの大冒険』

滝川クリステルさんが生命の多様性と神秘に触れる大型ドキュメンタリーの10作目を放送しました。日本では2019年も台風被害が相次ぎました。地球で今、何が起きているのか? ヒマラヤ、アマゾン、グレートバリアリーフ等、数々の冒険を改めて紐解き、水と地球と生態系の真実を解き明かしました。

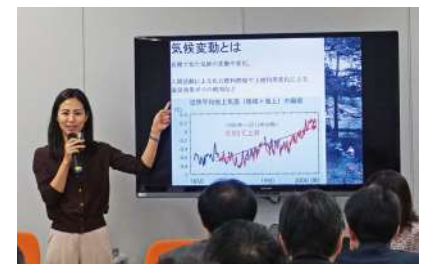
[2019年12月31日 5:55～7:00 放送]



■ 気候変動についての勉強会を開催

ドキュメンタリー番組『環境クライシス』リポーターで環境ジャーナリストの竹田有里さんを招いて、社内向けの勉強会を開催しました。「美しい地球を残していくために、今私たちにできること」と題してご講演頂き、地球温暖化の現状と、今やるべきことについて参加者とともに理解を深めました。

[2019年10月25日]



環境ジャーナリスト 竹田有里さん

環境美化活動 お台場エリアをより美しく快適に

■ホールディングス全社で清掃活動を継続

国内外から数多くの観光客が訪れるお台場エリア。みなさまに少しでも快適に過ごして頂けるよう、2006年より清掃活動を行っています。フジ・メディア・ホールディングス各社が参加し、フジテレビ社屋周辺、お台場海浜公園や道路等の清掃を、年3回実施。地域の美化に貢献しています。

[2019年7月10日・10月10日・2020年1月24日]



■「東京臨海副都心まちづくり協議会」と連動した活動

■チューリップの球根植え

春に開催される「花と緑のフラワーフェスタ」に向け、フジテレビの近くにあるセントラル広場にチューリップの球根約8万球を植えました。近隣企業や武蔵野大学の学生も参加して総勢590人で楽しく活動しました。

[2019年11月20日]



フジテレビからは15人が参加



みんなで球根植え



春に咲いたチューリップ(2020年3月)

■清掃活動

環境事業の一環として実施している「臨海副都心清掃キャンペーン」に毎回参加しています。今回は近隣企業26社から合計120人(フジテレビからは10人)が秋晴れの空の下、臨海副都心エリアを綺麗にしました。

[2019年10月15日]



■「打ち水日和」プロジェクト

猛暑の中、涼を得るための昔ながらの知恵「打ち水」を実施しました。3回目となる今回は近隣企業18社から80人(フジテレビからは6人)が参加、ひしゃくで水をまくと、36.5度あった気温が33.9度に下がり、効果を実感しました。

[2019年 8月16日]



36.5度から33.9度に!!

地球環境のための社内の取り組み

■環境行動計画 お台場議定書

フジテレビは、環境行動計画として2007年に「お台場議定書ー今、はじめよう!ー」を策定しました。私たちは、企業として、またひとりひとりができることは何かを考え、環境対策に取り組んで参ります。

お台場議定書

ー 今、はじめよう!ー

1 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベント等を通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

2 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ゴミ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達等の促進や省エネルギー、省資源等のエコ活動と一緒に取り組んでいます。

3 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温室効果ガス削減やゴミ分別等について、目標を定めて活動し、その結果を公表します。更に、世界の環境活動等の情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めていきます。

■社内の「3R」の取り組み

REDUCE[発生抑制] REUSE[再利用] RECYCLE[再生]

を呼びかけ、全社で地球環境改善のための取り組みを実施しています。

その結果、2019年度のゴミ分別率は80.5%と目標の80%をクリアしました。



■社内の省エネ等の取り組み

- スタジオ・社内各所の照明をLEDライトに
- エレベーターホール・トイレ・給湯室に人感センサー設置
- 空調を防災センターで一括管理
- 空調機のインバーター化による省エネ
- クールビズ・ウォームビズ 夏27度 冬22度
- 放送に使用するワイヤレスマイクの電池を充電式に
- 窓ガラスに遮熱塗料を塗布
- 全社のゴミを11分別
- スマートワーク推進によるペーパーレス化
- 番組セットの廃棄を一括処理
(排出事業者としてまとめて廃棄事業者者に委託)

■温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。2019年度のフジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は21,342(速報値)トンで、15%の削減目標を大きくクリアして約30%削減を達成しました。

PICK-UP

民放連「環境行動目標」6年ぶりに更新

日本民間放送連盟は、地球環境の保全に向けて努力することは企業の責任であり、メディアの持つ情報発信力を最大限に活用し視聴者への普及、啓発活動を行うなどとする新たな「環境行動目標」を2019年12月に制定。フジテレビは各社とともに、持続可能な社会への転換に向けて取り組みを強化します。



<https://www.j-ba.or.jp/category/aboutus/jba101984>

災害復興支援

災害で大きな被害を受けた地域に伺い、テレビ局らしいイベント等を開催することで被災地の“心”の復興をサポートしています。



『サザエさん』上映会(広島県呉市)

オリジナルの被災地復興支援活動を継続

■「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続して行っています。被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。2019年度は、9月に発生した台風19号で被害を受けた栃木県小山市の幼稚園で食育出前授業、福島県いわき市、郡山市の保育園でクリスマス会を実施しました。この他、2018年西日本豪雨で被災した広島県呉市で『サザエさん』上映会、東日本大震災の被災地、岩手県大船渡市で食育出前授業を行う等、各地の要望に応じてイベントを開催しました。

フジテレビ ずっとおうえんプロジェクト



2019年度実績

- 『サザエさん』上映会
 - 5月8日 広島県 呉市立安浦小学校
 - 5月9日 広島県 呉市立天応小学校
- 「ハロー!どっこくん」出前授業
 - 6月22・23日 岩手県大船渡市 「めんこいまつり」
 - 2月7日 栃木県小山市 白鷗大学はくおう幼稚園
- クリスマス会
 - 12月17日 福島県 いわき市はと保育園／分園 郡山市永盛保育所

2019年度 7ヶ所 約1,090人を対象に実施
2011年からの開催累計 209ヶ所 約25,790人
(2020年3月末現在)

被災地の現状を伝える番組を継続放送

国民に安心・安全を届ける ～放送を継続する責任～

公共性の高いメディアであるテレビ局にとって、震災等の災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。フジテレビでは震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道等に努めています。取材にあたっては、被災した方の感情に配慮することを常に心がけています。

■『わ・す・れ・な・い』

あの震災の悲劇と教訓、犠牲者、被災者の方々を“忘れてはいけない”という思いで、これまで20本のドキュメンタリーと検証報道を送り出してきたシリーズ『わ・す・れ・な・い』。東日本大震災から9年が経過した2020年は2つの企画を放送しました。

1.被災当時は小学生だった宮城と福島の子どもの“心の成長”を追った『わすれない～震災を伝えてくれた彼らの9年～』

[2020年3月8日 18:00 ～ 19:55 BSフジ放送]

2.地震と津波からの避難行動を再検証した

『わ・す・れ・な・い～死者をゼロにする情報とは～』

[2020年3月11日 15:50～16:50 フジテレビ放送 ※6ページ参照]



■『バイキング』坂上忍 東北お手伝いの旅

『バイキング』(月～金11:55～13:45)では、坂上忍さんが東北の被災地を訪問して現地でお手伝いをする旅を放送。4年目となる今回は宮城県に赴き、高齢化と働き手不足に悩む松島の漁港で「かきの水揚げ」を手伝ったり、サンドウィッチマン伊達みきおさんの母校をサプライズ訪問。更には、気仙沼でフカヒレの加工や日本酒の仕込み・オリジナルラベルの製作をお手伝い。そして松島の遊覧船に乗船し、地元企業の方々と一緒に名産品を味わうなど、熱い交流をさせて頂きました。

[2020年3月9日～13日 放送]



■『バイキング』被災地・千葉を坂上忍自ら取材・継続放送

MCの坂上忍さんと榎並大二郎アナが、台風15号の被害が大きかった富津市金谷地区で被害状況取材しつつ、災害ゴミを運び出すお手伝いをしたり、公民館で炊き出しを行うなど、住民の方々との交流を深めました。更に4ヶ月後には、坂上さんと榎並アナが再び取材に訪れ、未だ復旧のめどが立たない被害の現状を改めて伝えました。

[2019年9月23日・2020年2月3日 放送]



令和元年台風19号の被災地支援のため 「サザエさん募金」を実施

フジネットワークでは、令和元年台風19号及び10月24日からの大雨の被災地の復興を応援するため、サザエさん募金を実施し、フジ・メディア・ホールディングス各社の協力も得て支援を募りました。[2019年10月15日～11月30日 実施]

みなさまから寄せられた募金総額 **2億 2,065万1,726円**は、義援金として日本赤十字社を通じて被災地に送られました。



©長谷川町子美術館

テレビ美術の力で被災地に笑顔を

■「こども笑顔プロジェクト」

「こども笑顔プロジェクト」は、フジテレビ美術制作局と美術関連会社からなる「八美会」が、“ものを創る楽しさ”を子どもたちに体験して頂き、笑顔になってもらいたいと2013年に立ち上げた被災地支援活動です。2019年は10月5日に「ふたばワールド2019 in Jヴィレッジ」(福島県双葉郡)で開催し、子どもたちがアニメのキャラクターに扮装したり、テレビ美術ならではの機器類を使ってゲームを体験するなど、多くの人が笑顔を見せてくれました。



アニメのキャラクターに扮装



人気番組のゲームにチャレンジ



全身を使って遊ぶオリジナルCGゲームに挑戦

フジ・メディア・ホールディングスで桜の苗木を寄付

■「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震や津波、更に放射能被害を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス(FMH)各社は2013年度から協賛しています。2019年度はディノス・セシールの顧客や、FMH各社等から合わせて桜145本分の寄付をし、これまでの植樹本数は1,320本になりました。2020年2月15日には相馬市で桜の苗木を植えました。



BCP対策・防災への取り組み

■災害放送訓練

系列各局と協力して毎年大規模な災害放送訓練を実施しています。2019年度は、前年度に続き「南海トラフ地震」を想定した報道特別番組をシミュレートしました。系列9局が参加し、ヘリコプター3機を飛ばした大規模なものでした。訓練で浮かび上がった問題点を分析し各局の態勢づくりに活かしています。この他、本社が電源を喪失した場合のBCP訓練や、深夜などスタッフが少ない時間帯に災害が発生した場合でも速やかに放送できるよう定期的に訓練しています。



■春と秋に「防災ウィーク」を実施

放送を継続することは、メディアとしての重要な使命です。2011年から「防災ウィーク」と称して社内で働く社員・スタッフを対象とした防災訓練を毎年春と秋に行っています。全社一斉避難訓練では、「東京2020オリンピック・パラリンピック」に備え英語での館内放送による避難誘導も実施しました。また、本社ビル・湾岸スタジオ・ダイバーシティ東京及び新宿支局のライフラインや備蓄品についての安全衛生委員会向けの勉強会を開催し、いざという時の情報共有に努めました。



[春 3月11日～13日]
[秋 9月17日～20日]

■外国人向け防災ブックレットを制作・配布

臨海副都心エリアを訪れるインバウンド旅行者向けに、万一被災した際の緊急避難場所や公共交通機関運行状況、外国人受け入れ可能病院等、すぐに役立つ情報アプリなどを掲載した冊子を作りました。フジテレビ見学者コースをはじめ、台場周辺の商業施設などに設置しています。



PICK-UP

ガチャピン・ムックが防災意識の向上に貢献

災害弱者である乳幼児とその家族を対象とした防災啓発イベント「みんなの防災+ソナエ」を2016年から実施しました。2017年からは全国の大型商業施設での開催に拡大し、2019年までに12地域、のべ30万人が参加した国内最大の防災啓発イベントとなりました。イベントの「防災ナビゲーター」を務めるのはガチャピン・ムック。

屋内では、主に自助、共助を中心とした体験プログラム、屋外では、警察、消防、自衛隊の災害時支援車両による「防災はたらくるま」等のプログラムを展開。また、各局の気象予報士や防災士の資格を持つアナウンサーも参加したワークショップ等も実施しました。「防災」について小さなお子さんやご家族にわかりやすく体験してもらい、災害に「ソナエ」てもらおう意義深い活動になりました。



[2019年度 全国7会場のイオンモールにて開催
合計61,817人が参加]

顕彰制度を通じて豊かな社会を

■ 高松宮殿下記念世界文化賞

「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」という、故高松宮殿下のご遺志に基づいて、公益財団法人日本美術協会によって1988年に創設された「高松宮殿下記念世界文化賞」。フジテレビは趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げて支援しています。絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門にわたり、これまで世界のそうそうたる方々が受賞されています。第31回の授賞式は、2019年10月16日、常陸宮同妃両殿下をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われ、常陸宮殿下から受賞者に顕彰メダルが授与されました。創設以来の受賞者は30ヶ国、160人にのぼっています。

第31回高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者

絵画部門	ウィリアム・ケントリッジ氏
彫刻部門	モナ・ハトゥム氏
建築部門	トッド・ウィリアムズ&ピリー・ツイン氏
音楽部門	アンネ=ゾフィー・ムター氏
演劇・映像部門	坂東玉三郎氏
若手芸術家奨励制度	デモス(フィルハーモニー・ド・パリ) = フランス

■ 地球環境大賞

「地球環境大賞」はフジサンケイグループが1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。WWF(世界自然保護基金)ジャパンの特別協力を得て、「産業の発展と地球環境との共生」をめざしています。第28回の授賞式は、2019年4月22日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして、東京・元赤坂の明治記念館で行われました。今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しており、これまでの受賞企業・団体は約280に及びます(2019年4月現在)。フジテレビは、フジサンケイグループとともに番組やホームページでの発言を通して「地球環境大賞」をサポートしており、「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。

第28回 地球環境大賞 大日本印刷株式会社

環境問題に貢献する「DNP多機能断熱ボックス」の開発



©日本美術協会／産経新聞

『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2019年10月30日 24:25～24:55
BSフジ 2019年11月10日 17:00～17:30

▼詳しくは高松宮殿下記念世界文化賞公式サイトをご覧ください。
<https://www.praemiumimperiale.org/ja/>



▼詳しくは地球環境大賞公式サイトをご覧ください。
<https://www.fbi-award.jp/eco/>
※地球環境大賞特別番組につきましては16ページをご参照下さい。

29年目を迎えた“自己検証”番組

■『週刊フジテレビ批評』[毎週土曜日 5:30～6:00放送]

テレビ番組やメディア業界に関するトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年にスタートしました。寄せられた「視聴者の声」や毎月の「番組審議会」の模様を紹介する他、ドラマやバラエティ番組、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露、また放送の最新技術、視聴率、BPOといったテレビにまつわる事柄を解説する等、多彩な企画で“テレビ”をより深く理解してもらい「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。



■ 番組審議会

番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2020年4月現在、有識者で構成された審議委員は9人。月に1回(8・12月は休会)、様々なジャンルの番組を審議対象に、委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組づくりに活かされています。また議事録ダイジェストを社内に共有、概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。



■ 社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載を通じ、社内に共有しています。また月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。

■ ご意見・お問い合わせ窓口

視聴者サービス推進室は、フジテレビの「窓口」として、視聴者からのご意見・お問い合わせを、コミュニケーションを図りながら電話でお伺いするとともに、メールによる投稿も受け付けており、今後の番組制作等に役立つよう番組制作者や関係各部署に伝えています。

2019年度に頂いた ご意見・お問い合わせ

- 電話 約13万5,000件(1日平均 約370件)
- メール 約37万件(1日平均 約1,000件)

■ 放送コンプライアンスについて

フジテレビでは番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針のひとつとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。また「放送コンプライアンス委員会」(月1回)を筆頭に、階層ごとに4つの会議を定期的に開催し、迅速な情報共有からトラブル防止の検討まで、活発な意見交換を行っています。



人材育成

■人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する留学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、技術部門等で学生に向けた就業体験を行っています。



研修の一環としてブラインドサッカーを体験(2019年度入社社員)社員が、自らの成長を実感しながら仕事に取り組めるような研修制度やセミナーを実施しています。

働きやすさを支援する制度

社員が働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。

■テレワーク・時差出勤の導入

より柔軟な働き方に資するため、テレワークを認めている他、午前9時30分から午後5時30分までの就業時間を柔軟化し、原則午前8時から午後8時までの間での勤務が可能です。

■社員の個人的な社会貢献の支援

個人的に社会貢献を行う際、活動内容を会社に申請することで、休暇を取りやすくなるように支援しています。

■疾病予防への取り組み

疾病予防への取り組みとして、定期的な健康診断に加えて、人間ドック、脳ドック、婦人科検診の受診サポートをしています。また、生活習慣予防指導の一環として、対象者に「生活改善プログラム」への参加を促したり、食堂で「産業医おすすめバランスごはん」「サラダバー」等、栄養バランスを考えたメニューを提供しています。

■献血の実施

輸血用の血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内での献血活動を行っています。

■育児支援

養育のために小学校就学前まで休職することができる他、最大2時間までの養育時短を希望する期間取得できます。また従来の制度に加え、子どもが満3歳に到達した直後の月末までに復職した場合、最長で小学校4年生の3月末まで養育時短を取得できる制度を新設し、子どもを育てる社員が自分のキャリア形成を守るための選択肢を増やしました。ベビーシッターや学童保育等の利用には特別補助もあります。

■復職支援

長期の傷病休職から円滑に復職できるように、復職支援制度を設けています。また、配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員を対象に、会社に復帰できるジョブリターン制度を設けています。

■介護支援

家族に介護が必要となった場合、最大1年間の介護休業等を取得できます。また介護用品の購入や訪問介護の利用に特別補助を行っています。

女性活躍推進

女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

- 目標1** 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。
- 目標2** 「労働者に占める女性労働者の割合」で20%以上という国の定める目安の値を中長期的な期間でも維持できるよう努力する。

●2019年度採用実績 **52.0%**

●2019年3月末実績 **25.7%**

■コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的な人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たして参ります。

■業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、並びに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社の取締役及び使用人は、当社の経営理念・経営基本原則に基づいて制定した「フジテレビ行動宣言」を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。
- (2) 当社は、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」(以下「コンプライアンス等規程」という)等に基づき、当社の社内体制の整備等を行い、法令・定款遵守の実効性の確保を図ります。

① 組織体制

当社の代表取締役社長は、「コンプライアンス等規程」等に基づき、当社の当該関連業務を統括・推進します。また、当社取締役・執行役員等を構成メンバーとするコンプライアンス及びリスクの管理に関する委員会(以下「コンプライアンス等委員会」という)、及び中堅社員を構成メンバーとするコンプライアンス等担当者会議を組織化することによって、当社の経営及び事業全般に重要な影響を与えるコンプライアンス上の問題ないしはリスクへの対応を図ります。

② 教育・研修

当社は、適宜、社内説明会の開催や、イントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載などにより、当社の取締役及び使用人の当該プログラムへの周知と、その理解を促進する活動を行います。また、当社はコンプライアンス及びリスクの管理に関する定期的な社内研修を実施する他、コンプライアンス等担当者は各部署において、意識を高める活動を展開します。

③ 財務報告の信頼性

当社は、当社の業務が健全に行われるよう十分に配慮しつつ、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。

④ 内部監査

当社は、「内部監査規程」に基づき、当社の全部門と当社子会社を対象として、会計及び業務に係る定期監査並びに臨時監査を行い、当該会社の業務全般が法令、定款及び社内規程に照らして適正かつ有効に行われていることを確認します。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。

3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。

4. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び当社の子会社（以下「当社グループ」という）から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制について、以下の通り、整備・実施します。

- (1) 当社は、当社の子会社の取締役及び使用人が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守した行動をとり、かつ、効率的な業務執行が行われるよう、「関係会社管理規程」等に基づく横断的な管理を推進します。
- (2) 当社は、当社子会社がその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制の構築を推進するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクへの対応については、当社が状況を的確に把握する体制を構築します。
- (3) 当社は、親会社である株式会社フジ・メディア・ホールディングスとも連携を図り、子会社各社におけるコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制づくりを推進します。

5. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、監査役

の職務を補助する使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

当社の監査役は、監査役間の協議に基づいて、監査役スタッフを任命します。監査役スタッフは、監査役の職務の補助、及びこれに付随する事務を行います。なお、これら業務については、職務分掌において、当社の内部監査部が担当することを定め、監査役スタッフは当社従業員として当社の就業規則に従いますが、原則として、その指揮命令権は各監査役に属し、取締役は監査役スタッフに対する指揮命令権を有しないものとします。また、監査役スタッフの人事考課、人事異動及び懲戒等については、監査役の意見を徴するものとします。

6. 当社の取締役及び使用人、並びに子会社の取締役、監査役、及び使用人（以下「当社グループの取締役等」という）が、当社の監査役に報告を行うための体制

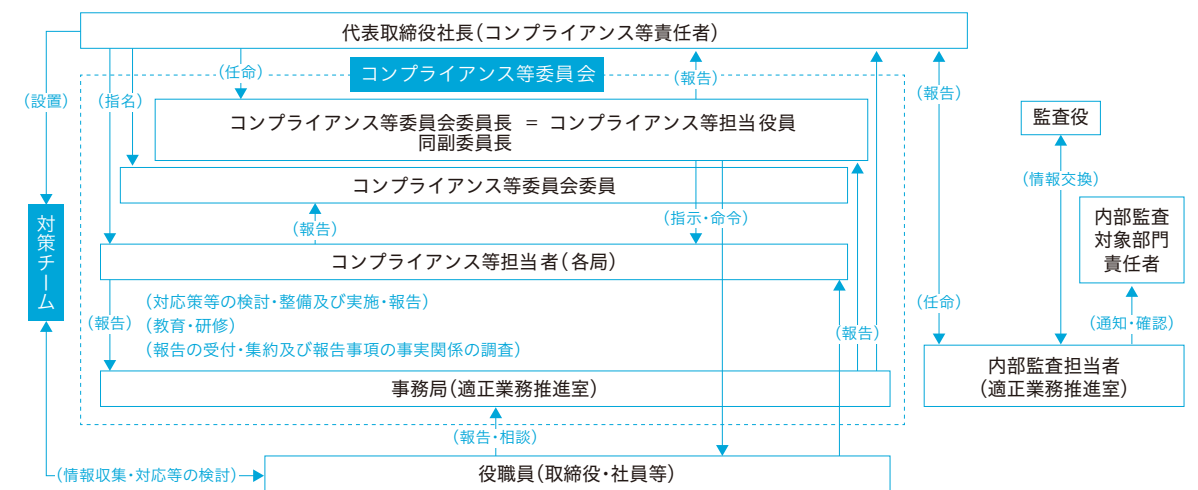
当社グループの取締役及び使用人等が、当社の監査役に報告を行うための体制について、以下の通り整備・実施します。

- (1) 当社グループの取締役等は、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 - ① 業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実（当社グループ各社に関するものを含む）を知った場合。
 - ② 取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実（当社グループ各社に関するものを含む）を知った場合又は社会通念に反する行為が発生する可能性若しくは発生した場合で、当該事実又は行為が重大である場合。
 - ③ その他緊急・非常事態を知った場合。
- (2) 当社グループの取締役等は、当社の監査役に対し、以下に定める事項について定期的又は必要に応じて報告を行います。
 - ① 毎月の月次会計資料
 - ② 内部監査報告書及び各部門からの主要な月次報告書
 - ③ 重要な訴訟事案
 - ④ 内部統制に関わる部門の活動概要
 - ⑤ 重要な会計方針・会計基準及びその変更

- ⑥ 業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
- ⑦ 当社グループ各社における営業の報告
- ⑧ 当社グループ各社の監査役の活動概要
- ⑨ その他重要な事項等

- (3) 当社グループの取締役等は、当社の監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。
- (4) 当社グループの取締役等が、上記(1)(2)(3)に該当する報告を当社の監査役に対して行ったことを理由として、不利益な取り扱いを受けることがないことを社内規程等に定めます。
- (5) 監査役の職務全般に係る費用は当社が負担するものとします。

内部統制の仕組みは以下の通りです。



▼詳しくはこちらをご覧ください。
「業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要」 <https://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html>

情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。また、昨今急増するサイバーテロによる個人情報流出等に備え、個人情報の保有状況等を把握するとともに、ITリスク対応会議を中心に対策・対応に努めています。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」 https://www.fujitv.co.jp/csr/management/security_basic_policy.pdf

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

2011年10月、東京都暴力団排除条例が施行され、これを受けて日本民間放送連盟（民放連）が「反社会的勢力に対する基本姿勢」を発表し、「出演契約における反社会的勢力排除についての指針」をまとめ公表しました。適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責任であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。フジテレビは、この民放連の「基本姿勢」と「指針」を遵守し、施策を講じております。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
「日本民間放送連盟ホームページ」 <https://www.j-ba.or.jp/>

第三者意見

■コンプライアンス

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、すべての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めることを番組編成の基本として掲げています。自主自律・不偏不党の立場を堅持し、公平かつ平和で自由な社会を守るために、真実の伝達と品位ある放送を行うことで「メディアとしての使命」を果たすとともに、放送以外においても「法令遵守への高い意識」を持ち続け、社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

フジテレビのコンプライアンス体制

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しています。

主な取り組み

■コンプライアンス社内・社外相談窓口

コンプライアンス違反やハラスメント等の相談ができる「社内相談窓口」と「社外相談窓口」を設置しています。フジテレビで働くすべての関係者を対象としており、直通電話かメールで通報、相談ができます。



社内イントラ画面

■eラーニング コンプライアンス研修

フジテレビで働く社員・スタッフを対象（約4,500人）に、毎年実施しています。考査や法務をはじめ、コンプライアンス関連の実際の相談例を基に「具体的な問題」を数多く出題することで、より実践的な研修としています。



eラーニング コンプライアンス研修2020

■ハラスメント防止研修

講師に弁護士を招き、部長級以上の社員を中心に、ハラスメントに関する研修を行いました。ハラスメント関連の裁判例を学び、出席者全員でディスカッションすることで、実効性のあるものとしています。



ハラスメント防止研修

■標的型攻撃メールの体験型訓練

サイバーセキュリティに対する注意喚起を促すため、社員・スタッフに「標的型攻撃メール」を実際に届ける体験型訓練を実施しました。また、eラーニング研修でもセキュリティ知識の啓蒙を行っています。



標的型攻撃メールを開いた場合の警告画面

■児童・青少年への配慮

民放連による「青少年の知識や理解力を高め、情操を豊かにする番組を少なくとも週3時間放送する」との申し合わせに基づき、民放テレビ各社は、毎年、春と秋に公表しています。2019年秋にフジテレビが選定した番組は、以下の6番組です。『サザエさん』『VS嵐』『ボクらの時代』『ちびまる子ちゃん』『もしもツアーズ』『GO! GO! チャギントン』

▼ 詳しくはこちらをご覧ください。
「日本民間放送連盟ホームページ」 <https://www.j-ba.or.jp/>



別所 哲也 | 俳優 Bessho Tetsuya

慶応義塾大学法学部卒業 90年日米合作映画『クライシス2050』でハリウッドデビュー。その後、映画・ドラマ・舞台・ラジオ等で幅広く活躍。「レ・ミゼラブル」、「ミス・サイゴン」などの舞台に出演。99年より日本発の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル」を主宰し、文化庁長官表彰受賞。「J-WAVE TOKYO MORNING RADIO」のメインナビゲーター、フジテレビ『Live News it!』などのコメンテーターとしても活躍中。

この度CSRレポートを読ませて頂き、本当に多様な活動をなさっていることがよくわかりました。これらの活動は今後も継続的に行われ、しかも、色々な方々に伝わっていくことが大切だと思います。

近年、SDGsを意識してサステナブルな活動を行わない企業の株価が下落する時代となり、グリーンカンパニーは世界のスタンダードになっています。SDGsを推進する企業には優秀な人材が集まり、そういう人たちが国籍を超えてつながったりする時代です。これからの企業は、ただSDGsバッジを付けているだけでなく、実際に何をやっているかということが問われてきます。また、若い人たちは敏感に捉えていて、ソーシャルグッドな場所でしか働きたくないという人が増えています。

SDGsをテーマにした『フューチャーランナーズ』は初めて知りましたが、大変素晴らしいと思います。こういう取り組みは瞬間風速的にやるのではなく、それこそ持続可能という言葉どおり、やり続けることが大事で、アーカイブされていくことで、やがて太い幹になっていくと思います。まさに「継続は力なり」です。今は、一時情報はネットで取れますが、それをどのような切り口で伝えるか、我々の映画祭ではシェフと呼んでいます。シェフがどう料理しスパイスアップするか、テレビの力の見せ所ではないでしょうか。「あなせん」については、言葉はカルチャーであり、アイデンティティなので、とても有意義な活動だと思います。今はeラーニングの時代になってきて、オンライン授業もぜひやって欲しいと思います。食育出前授業「ハロー！どっこくん」も、メディアの力を使って発信することの意義は大きいので、ネットと連動するなど継続、発展させるべきだと思います。

また被災地支援については、ずっと伝え続けることが大事で、被災者の方は、自分たちが忘れられていない、寄り添ってくれていると感じることで勇気づけられ、癒されます。フジテレビの宝であるサザエさんや、ガチャピン・ムックを起用した活動はとてもいいですね。

高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト「ドラマ甲子園」は、OJTにもなりますし、業界に興味を持ってくれる人を新たに作り、次の担い手を発掘することになり、非常に大事だと思います。

私は、99年から「ショートショートフィルムフェスティバル」という日本発の国際短編映画祭を主宰しています。90年代は日本とロスを行き来していたのですが、当時アメリカでは短編映画を通じた若手クリエイターの発掘が盛んで、97年に初めてショートフィルムを見た時に、非常にガツンとやられました。それから短編映画の魅力に取りつかれ、未来の映像事業を担う人々を発掘したいと考え、フェスティバルを立ち上げ、今も続いております。また90年代中ごろからインターネット時代が始まり、これから映像事業がネット上に展開されるという未来予想図を描いていました。その後、映画祭のノンフィクション部門においては、3年間に渡ってヤフーとの連携が実現しました。一般の方が撮ったドキュメンタリーをヤフーが集約してくれたのです。

その意味では、今回のフジテレビとNHK、ヤフーとの共同企画は大好きで、こういうことをもっとやって欲しいと本当に思いました。CSRに関しても、ネット上での展開はこれからはマストだと思います。もっと言えば、これにソーシャルメディアをどのように絡めていくかが大事な時代です。今回の災害番組のように、従来の枠組みを超えて、業界をまたいでつながるということがあっていいのではないのでしょうか。プラットフォームのようなものを作り、一般の方に窓口を開放して、自作ビデオや映像を集めてもいいかもしれません。それをプロがフィルタリングしたり、アレンジするなどして、人と人がつながり、今まで目に入らなかった情報を集約する中で、SDGsとして成立するものが出てくるかもしれません。私が俳優や映画祭をやっていて重要だと感じるの、新しいグッドバリューを探す価値づくりです。世界と価値でどうつながるか、新しい価値をどう創造し企業価値の向上につなげるか。今後も引き続きスピード感あふれるものがどんどん生まれていくことを期待します。

専務取締役CSR担当
和賀井 隆
Wagai Takashi

ご意見を受けて

貴重なご意見を頂きまして、誠にありがとうございます。20年にわたって国際短編映画祭を主宰され、映像の持つインパクト、重要性を熟知されているお立場から、それぞれの分野のみならず、今後のCSRの在り方等についても、大変示唆に富んだ貴重なご提言を賜りました。今後も本業である放送を通じて、また放送から派生してできることに力を入れて、企業としての社会的責任を果たして参りたいと存じます。発信力、創造力、そしてエンターテインメント性に富んだフジテレビらしいCSR活動を展開して参りますので、みなさまのご理解を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。